The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	UNIX版SPSSの利用法 : SPSSを利用する人のための SPSSでの成功・失敗実例集
Author(s)	伊海, 公子
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1998, 110, p. 17-22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66305
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

記事

UNIX版SPSSの利用法

SPSSを利用する人のための SPSSでの成功・失敗実例集

奈良女子大学人間文化研究科生活環境学専攻
大学院研究生　伊海 公子

はじめに

誰しも、何でも新しいことをする時、１度や２度は失敗します。『予め分かっていたらよかったのに----』と思うのは私だけでしょうか？　でも、パソコンって失敗して初めて『ああ！！』と理解できることもあります。どういう訳か、他の人より失敗が多いので、私は普通の人がやらない失敗を幾つかやっているようです。そこで、このような実例を沢山知っていただき、より快適にお仕事を進めていただこうと、そして、パソコンを好きになっていただこうと考えました。以後、成功例や失敗例を増やし、次に新しくＳＰＳＳを利用する方の不安を少なくしてあげられたら----と思っています。

私が体験しなかった成功例や失敗談をお知らせ下さい。(^_^)

データに関して

Ｉ.入力

成功例

①SPSSのDATAエディタ画面を利用する(file：＊.sav)。この場合、変数名や変数値名は各変数毎に入力する。

（これは、間違いなく成功します。）

②Excelでデータを作成する場合、変数の数が少なければ（50変数位）BOOK形式の１Sheetで作成できる。

（file：＊.csv (ｶﾝﾏ区切り形式) または、＊.prn(スペース区切り)）

③しかし、変数の数がもっと多い場合は、２Sheet以上になってくる。　この時、１Sheetづつ保存する。(1Sheetづつしか保存できません)

失敗例

①Excelでは、１Sheetで200～250変数位は作成できますが、１変数の桁数が多いことも考え、50変数位が適当と思われます。スペース区切りで50～60変数を保存し、SPSSで読み込んでみました。

Excelで作成/保存時のセル幅の空間隔が狭い場合、

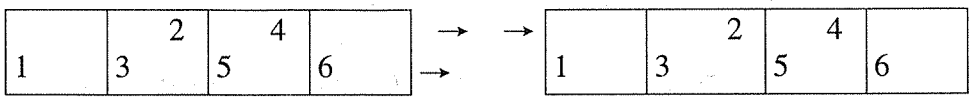
Excel　　SPSS

1	2	3456 7	89 0	→ → →	1	23456 7	89 0	

となってしまいました。

②同様に、スペース区切りで、1セルの幅にかなりの余裕を作り保存しました。

Excel（セル幅：5～6）　　SPSS



と一見正常に読み込みました。しかし、変数の数が多く、1行の桁(ｶﾗﾑ)数を越えた場合、越えた変数の数だけ、新しい対象者の変数として読み込まれてしまいました(対象者数が2倍になってしまいました)。

Ⅱ.変更・修正・追加・変容

成功例

①SPSSのDATAエディタ画面で変更・修正・追加を行い保存する。
　但し、大量の変数や対象者(件数)の追加は、別のFileを作り、連結ができます。

（これは、間違いなく成功します。）

②データの入力が終わり、recodeやmissingなどの設定を行う場合、変数名をダブルクリックすることで、windowが開き設定できます。しかし、変数の数が多い場合、後述するSPSSsyntax画面での記述・実行で、一括設定ができます。

Ⅲ.変数名の付け方（第1番目の文字はアルファベットを使う）

失敗例

①変数名の表示は、コンピュータの言語規則に従います。
　例えば、1カラム目から、下のように

No	sex	age	food 1	food21	food22	food3	food10

と8変数を並べたとします。エディタ画面では、入力の通りに表示されます。しかし、frequenciesコマンド等で変数を指示するwindow では、次のように並んでしまいます。

↓

age
food1
food10
food21
food22

2カラム目から5カラム目までのsex、age、food1、food21の4変数を範囲一括指定をしたい場合、変数名付け方を考えましょう。調査では、sexとageはよく使われますが、変数の数が多くなればなるほど、離れてしまうようです。

ex)100変数まである場合は、A001･･･A010････A100

food3 No sex

とします。アルファベットは自由に付けて下さい。

Ⅳ.保存

成功例

①一般に保存の仕方に、「上書き」「名前を付けて」の２種類あります。

SPSSでは、「SAVE」「SAVE　AS」になります。DATAを「selcct if」や「recode」などを使って変容した後は、「SAVE　AS」を使い名前を変更して新しいFileを作って下さい。

失敗例

①DATAを「select if」や「recode」などを使って変換した後、「SAVE(上書き保存)」をしてしまったら、DATA変換していない素DATAが無くなってしまい、違う変換を行うとき、全て解除を行わなければなりません。また、つい統計演算を行うときも以前の設定が不明確となることがあります。
(このような失敗は私だけかも----？？？？)

OUTPUT(結果出力)に関して

成功例

①OUTPUT画面に表示された結果を保存する場合、保存する行数に制限があります。

こまめにSAVEしましょう。

例．クロス集計の場合、一度の操作では75組合わせの計算が限界です(プログラムでは「/」で次の75組み合わせが可能)。OUTPUT画面では設定によって記憶される行数に制限があります。クロス集計の100～150組み合わせ分位が、フロッピーの600KB位です。

失敗例

①OUTPUT画面では、統計演算結果が次々に表示されます。しかし、保存可能バイト数の限界を超えてもその表示はありません。演算を全て終え、集計結果をフロッピーに転送して持って帰りましたが、集計結果は途中で切れていました。

②単純集計やクロス集計の出力結果を全て１FileにSAVEしてしまいました。しかし、後になって何時、どのFileに何をSAVEしたかが分からなくなります。
(98925.txt：1998年９月25日に作ったFileとすると中身が分かりません)

改善策

①作業結果（集計結果)は、こまめに分かりやすい名前でSAVEする。
②サブディレクトリやフロッピーを作業(統計内容)毎に作る。
③拡張子にfrequenciesの時：ｆｒｑやCROSS集計の時：ｃｒｓなど独自のものを

作って分かりやすくする。
(他に良い方法があったら教えて下さい----!!)

※出力結果は、file転送する事で、フロッピーにコピーできます。
（プログラムやデータも同じです）

従来のプログラムFileを利用したい方へ
(Mマシーンからの File転送が必要です：フロッピーからの転送は、後頁を参照)

従来のプログラムを使う方式で利用したい方は、今までのＪＣＬの部分を書き換えるだけで、これまでと同様にjobを実行することができます。また、Ｍマシーンの時よりも、ずっと便利になりました。(１行132ｶﾗﾑのデータもOKです。)

操作手順は、SPSSプログラム画面の File→new→SPSSsyntax でsyntax画面(window) を開き、 ①そこにプログラムを読み込む。
②実行する部分を範囲指定する。
③実行マークのアイコン(右向き▲)をクリックする。
だけです。

1.データをプログラムに続けて書き込んでいるプログラムの例、

１行目から

```
TITLE 'DEMO'.
SET CASE=UPLOW/WIDTH 80/HIGHRES=OFF.
                                    グラフを作成する場合は「ON」にする
*
DATA LIST RECODES=2 NOTABLE Fixed
  /1 CASEID 1-2 SURVIVAL 4 TREATMNT 6 TIME 8-10(1)
  /2 PO2 5-7 PCO2 9-11 PH 13-15(2) RESP 17.
VAR LABELS  SURVIVAL 'Infant survival'.
RECODE SURVIVAL (0=1)(1=2).
VALUE LABELS SURVIVAL 1 'Die' 2 'Survive'/
   TREATMNT 1 'THAM' 0 'Sodium bicarbonate'.
MISSING VALUES  PCO2(-1)/RESP(9).
BEGIN DATA
1 0 1 020
    105 012 345 8
  ↓
 (data)
  ↓
1 3 4 035
    122 035 678 9
END DATA.
frequencies variables = caseid.
```

＊：一度「OFF」で実行をすると、その時のSPSS起動を終了するか、「ON」で改めて実行し直さないとグラフは作成できないので注意！！（失敗例があります）

2.データFileを読み込む場合のプログラム例、

```
SET CASE=UPLOW/HIGHRES=OFF/WIDTH 80.
DATA LIST file='/home/hl1/hl00000/FILENAME' RECODES=3 NOTABLE
Fixed
 /1 NO 1-4 GAKUBU 6 GAKKA 8 GAKUNEN 10 age 12-13 Y2 15-16
   --------
 /2 L1 6 L2 8 L2A 10 L2B 11 L2C 12 L2D 13 L2E 14 L2F 15 L3 17-1
8
   --------
 /3 L14A 6 L14B 7 L14C 8 L14D 9 L14E 11 L14F 12 L14G 13 L14H 1
4.
   --------
missing values y2 L1 TO L3 L14A TOL14H(8,9).

frequencies variables=age.
```

プログラムが、実行されない場合は、次のことを調べましょう。
①各実行コマンドの行尾に「.」があるかどうか。
②プログラムの通りにデータが配置されているか。
③ブランクデータが多くないか。
(SETコマンドでblunk=sysmis or 9 or 99と設定できますが数が多いと実行できないことがあります)

ファイル転送

Ⅰ．Mマシーンから、UNIXへFileを転送する。
操作(UNIX)
①コンソール画面(naraa,narab,naracなど)または、端末エミュレター画面(uranos)にカーソルを置く。
②次のように入力する（uranosの場合、△はスペースを表す）。
uranos％ｆｔｐ△ｍｓｐ
Name(msp:××××)：自分のＩＤ
Password：自分のパスワード（M用）
User logged in, proceesd
ftp＞**ascii**（テキストFileの転送です、バイナリーFileの時は「binary」と入力）

ftp＞**get△file name(ｍｓｐでの名前)△新file name**
(UNIXでの新しい名前は、何も書かなければ同じ名前で保存されます)
ftp＞**quit**（終了）

☆ftp＞の状態で「ｌｓ(ms-dosのdirと同じ)」コマンドが実行されますので、Ｍマシーンにあるfileの名前が分かります。
☆途中で、失敗したら---！！　quitと入力し、　一旦、終了する事。

また、他の操作中で、終了や取り消しをする時、次の操作が有効です。
実行しているprosessの終了：Ctrl＋C　　Logout：Ctrl＋D
☆プログラムやデータをMマシーンから転送すると行端に8ｶﾗﾑ幅の行番号が自動的についてきます。uranosに転送の後、次のコマンドを実行して下さい。

uranos％/apli/sas612/cut72△＜file name＞△新File name

☆正常にLogoutできなかった場合、UNIXコマンドを使ってLogoutできます。
naraa％ps△－aet△｜△grep△自分のID
実行番号が表示される
naraa％kill△－９△実行中の番号

Ⅱ．DOS-V機のFTP32(ファイル転送ソフト)を使って自分の作ったFILEをフロッピーに転送することができます。
この時、3.5インチのフロッピーは1.44MBにFORMATをして下さい。

☆OUTPUT画面の結果やデータ、プログラムなどをフロッピーに保存する。
または、フロッピーから、データ、プログラムをＵＮＩＸに転送する。

操作(windows95)
①FTP32のアイコンをクリックする。
②上から順に入力する。
Profile Name　：　wf_TPO
Host Name　　：160.11.4.26
Host Type　　：　WFTPD
User　ID　　：自分の　ID
Password　　：自分のパスワード

③出現したwindowの左側(Local System)はDOS-V機(フロッピーはa:です。a:を反転させchdirボタンをクリック）、右側(Remote System)はURANOSの自分のIDディレクトリになるはずです。
④転送したいfileをクリックで反転させ、矢印(→or←)をクリックし、転送します。
この時、転送する内容がテキスト形式の場合は「ASCII」、をバイナリー形式の場合は「Binary」を選択します。
⑤終了は、window右下のEXITボタンをクリックします。